

2024・年頭に向けた習近平国家主席挨拶を聞いて

「一帯一路」を超えて「パクス・アジアーナ」を牽引する

進藤榮一(筑波大学大学院名誉教授、国際アジア共共同体学会会長
一社)一帯一路日本研究センター所長、京大法学博士)

4年有余のコロナ禍の悪夢を乗り越え、いま中国は、新しい「第三の産業革命」を乗り越え、21世紀世界の指導的大国の道を歩み始めた。その横溢した自信と未来への展望を、詩的とも思える流麗な言葉で、見事に語り切っている。

人類はいま、21世紀「第三の産業革命」下で、新しい世界へと突入し始めている。19世紀「第一の産業革命」が「パクス・ブリタニカ」を生み、20世紀「第二の産業革命」が「パクス・アメリカーナ」を生んだ。いま「第三の産業革命」が、「パクス・アジアーナ」の世界秩序を生み出し始めている。その新秩序を、中国革命4分の3世紀後の中国がいま牽引し始めている。その近未来を、習近平主席は語り切っているのではないか。

いま「第三の産業革命」は、グリーン化とデジタル化とインフラ化という三つの全人类的課題を乗り越えることを求めている。グリーン化が緑色革命10年の歴史の中で市民生活を牽引し、緑あふれる国土再生に成功した。デジタル化が世界自動車産業の近未来を牽引している。そしてインフラ化が、中欧班列を軸に「一帯一路」構想の具現化を通じてユーラシア物流産業と豊かなウインウインの市民社会を、国境を超えて実現しつつある。

その全人类的課題を、習近平指導下中国は見事に乗り越え続けた。そして世界秩序の指導的大国として登場し始めた。ウクライナ戦争とガザ戦争という米欧世界による世紀末以来の大愚行を乗り越え、いま中国が、人類運命共同体構築の指導的役割を果たすことが求められている。その歴史的役割を、習近平主席演説は、世界の人々と共に担うことを呼び掛けている。そんな思いを抱かせる。歴史的な年頭教書といってよい。